

## 「光の道」構想に関する意見

意見提出元	財団法人 日本電信電話ユーザ協会佐賀支部
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>未整備エリアの対応は、全額公的予算で対応することが望ましいと考えます。地域毎に事情が異なると想定されるため、整備計画や方針は地域に一任し、国としては地域に対する補助金などを拠出すればよいのではないのでしょうか。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>NTTは分社化以降、組織形態が複雑となっており、ソフトバンクやKDDIのような通信サービスのワンストップ提供ができない状況にあり、我々のような企業ユーザから見た利便性や対応品質等の観点から、これ以上組織や機能を分割することは得策ではないと考えます。むしろ、極力、組織統合してほしい。</p> <p>例えば、最も迅速かつ正確な対応を期待する通信トラブル発生時の対応は、県跨りかつ複数多拠点に分散する企業ユーザにとって自社のLAN・WANシステムを熟知するシステムエンジニアとサービス提供事業者の設備・保守部門が一体となって対応することが望まれるが、例えばNTTの営業部門と設備・保守部門を分離すると、対応窓口がローカルの設備・保守部門単位となるなどが懸念されます。</p> <p>超高速ブロードバンドは企業ユーザも導入しているため、企業ユーザの視点での検討が必要ではないのでしょうか。</p>